

5 母親の不安・抑うつと母子間のアタッチメントに関する周産期メンタルヘルス研究

福井 直樹・茂木 崇治・橋尻 洸陽
 須貝 拓朗・江川 純・三留 節子*
 池 睦美*・生野 寿史**・山口 雅幸**
 高桑 好一***・榎本 隆之**・染矢 俊幸

新潟大学大学院医歯学総合研究科
 精神医学分野
 新潟大学医歯学総合病院看護部*
 新潟大学大学院医歯学総合研究科
 産科婦人科学分野**
 新潟大学医歯学総合病院
 総合周産期母子医療センター***

妊娠期と育児期の不安や抑うつは、母親と子ども間に形成される情緒的な結びつき（アタッチメント）に影響することが先行研究によって示唆されており、その不良なアタッチメントは育児放棄や虐待につながる可能性がある。本研究では、新潟県全域を対象に、妊娠期および育児期における女性の不安・抑うつ状態と、母子間に形成されるアタッチメントとの関係を調べる。今回はその研究計画の概要について発表する。

◎小児外科

6 ダイヤモンド吻合が施行できない特殊な病態を呈した先天性十二指腸閉鎖・狭窄症の2例

斎藤 浩一・窪田 正幸・小林 隆
 荒井 勇樹・大山 俊之・横田 直樹

新潟大学大学院小児外科

新生児の十二指腸閉鎖症例は、十二指腸拡張部が胆嚢で覆われ遠位側十二指腸が確認できず、空腸・胃吻合をRoux-Y再建にて行った。術後摂食状況に問題はなかったが、黄疸が遷延しAlagille症候群と判明した。年長児で発見された十二指腸輪状狭窄の1例は、高度な十二指腸球部潰瘍性変形のために胃・十二指腸側々吻合を行った。摂食状況は良好だが、定期的な内視鏡的治療が必要である。個々の病態に適した腸管再建術の選択が重要と考えられた。

7 小腸瘻管理における肛門側腸管への重碳酸リゲル液持続注入の試み

～輸液管理からの離脱へ挑戦～

倉八 朋宏*・***・飯沼 泰史*・平山 裕*
 仲谷 健吾*・永山 善久**・大石 昌典**
 佐藤 尚**・朝川 貴博***

新潟市民病院小児外科*
 同 新生児科**
 聖マリア病院小児外科***

血管確保の難しい低出生体重児における小腸瘻は腸液喪失に伴う水分管理・電解質補正に難渋することが多い。我々は重碳酸リゲル液（BRS/ピカーボン®）の組成が小腸液に類似することに着目し、3例の小腸瘻児に肛門側腸管BRS持続注入法（本法）を試みた結果、点滴が不要となり輸液療法とほぼ同等の補正効果と体重増加が得られることがわかった。口側腸液の還元や空気注入の併用で口径差が軽減する点でも有用な手段と考える。

◎産科

8 妊娠中に1型糖尿病を発症し、糖尿病性ケトアシドーシスを発症した2例

上村 直美・小川裕太郎・富永麻理恵
 森川 香子・常木郁之輔・田村 正毅
 柳瀬 徹・倉林 工・宗田 聡*

新潟市民病院産婦人科
 同 内分泌代謝内科*

妊娠中に1型糖尿病を発症し、糖尿病性ケトアシドーシスをきたし、緊急帝王切開術で母児ともに救命し得た2例を経験した。1例は妊娠29週、もう1例は33週であった。いずれも妊娠初期の随時血糖は正常で、発症前に著しい多飲多尿と体重減少の自覚があった。ごく稀な病態ではあるが、非妊娠時と比較して一刻を争う救急疾患である。適切な患者指導、医療者の意識改善、発症時の迅速な対応のための知識の共有が必要である。